

(議長)

次に「小林議員」の発言を許可します。

「小林議員」

「小林議員」

今日は私3点ほどお聞きしたいと思って準備させて頂きました。

まず1つ目ですが、「南桧山2次医療圏について」ということでちょっと枠は大きいですが、地域医療について二次医療圏における道立江差病院の役割は重要であり、医師数の減少は現在勤務されている医師への加重労働となっていて一層の困難をもたらしている状況だと思われます。先程の町長の執行方針の中にも引き続き各科の充実と、特に産婦人科の強化による分娩再開に向けた取り組みを南桧山の共通課題として、とりわけ江差は病院の立地する自治体として強く求めて行って頂きたいところです。

このことに関連して 先ごろ厚生労働省の「医療計画の見直し等に関する検討会」では各都道府県で策定する2013年度からの次期医療計画に向けた見直しの方向性を確認したとのこと。その中に人口20万人未満で入院患者の流出割合が大きい2次医療圏は他の医療圏と一体化させる再編もあり得るとしたと聞いております。単純に当てはめた場合、南桧山2次医療圏は函館圏域への統一とされ、南桧山2次医療圏域のセンター病院としての道立江差病院存在自体の足元がすくわれかねないと心配するところです。そこでお尋ねしますが、①現時点で情報があれば教えていただきたい。

②万が一にも、そのような動きが出たならば町として2次圏域の存在を強く訴えていかなければならないと考えますが、如何でしょうか。

よろしくお願いします。

(議長)

「町 長」

「町 長」

2次医療圏の存続についてのご質問でございますが、道立江差病院は南桧山医療圏における唯一の地域センター病院であるとともに、地域周産期母子医療センター指定病院でもあり、また、二次救急医療病院として圏域内において重要な医療提供病院であります。

しかし、現状は医師不足により分娩の休止や二次救急医療体制も充分ではない状況が続いております。このような状況を打破すべく、去る1月30日南桧

山医療圏構成5町が連携し医師の確保について、北海道と札幌医科大学に対し強く要請したところでございます。今後におきましても粘り強く取り組んで参りますが、小林議員ご指摘の国によります医療圏の再編成につきましては現段階では情報等、国・道から示されている訳ではありません。ご案内のとおり、北海道の中では平成20年3月に策定された「北海道医療計画」を24年度中に見直しすることとしております。

国においては、医療計画の見直し等に関する検討会において、二次医療圏の設定について議論され、医療計画作成指針（案）の中で医療圏の設定方法として、二次医療圏の設定にあたっては、地理的条件の自然条件、日常生活の需要の充足状態、交通事情等の社会的条件を考慮され、その際参考となる事項に人口規模が20万人未満で、流入入院患者割合が20%未満、流出入院患者割合が20%以上であるとしております。北海道医療計画の見直しにあたっては、これから示される国の医療計画指針に沿い進められるものと考えられますが、現在の北海道の立場は単に人口規模だけではなく、自然的条件や社会的条件等を含め総合的に考慮する必要があるとしていることから、指針を機械的に適用されることはないと考えています。またそうさせるべきではありません。大事なことは入院患者の流出率が高いということは、二次医療圏の医療体制に課題があるということを示すものであり、何よりもまず先に道立江差病院の機能充実によって自己完結的な医療圏を構築することであり、そういう視点に立って構成町と連携して参りたいと考えておりますので、ご理解頂ければと思っております。

（議長）

「小林議員」

「小林議員」

「医療費助成制度について」という事で、実は先ほど前回の議会でも質問させて頂いた事項であります。

前回町長は「私としても実施したい施策だが、しかし予算が厳しいので我慢をお願いしているところだ」との返答でございました。そこで町長に改めてお尋ねしたいと思いますが、前回私は全ての中学生までと致しましたが、厳しい町財政も勘案し、例えば助成の対象を親の収入が年収で500万円以下という縛りを設けた場合いかがだろうか、ご検討を頂けないか宜しくお願いします。

（議長）

「町 長」

「町 長」

小林議員から昨年１２月にも質問受けたものでありますが、医療費助成の拡大についてでございます。

親の年収に基準を設けて小学生児童の通院、中学生の入院及び通院の医療費助成を拡大ができないか、とのご質問内容でございます。思いは、思いはあるのですが、前回の一般質問にお答えした推計値を用いて議員ご提案の内容に換算いたしますと、概ね９百万円程度の助成額の増額が見込まれる内容であります。加えてこのほかに、支給に係るシステム改修が発生するという事と、人件費も発生するという事を考えて、対象範囲を拡大する予定は現在のところ考えておりませんので何とかご理解頂ければと思っています。

（議長）

「小林議員」

「小林議員」

町長の執行方針の３ページにも「若い世代が安心して子供を産み育てられる環境整備が重要だ」というように述べていらっしゃいます。確かに新しい事をやればその予算もつけなければならないでしょう。人の手間も掛かりましょう。でもその費用対効果。１つは例えば、今の事で言いますと９百万円プラスアルファでこの若い世代の政策、若い世代に安心して生活できる環境整備がこれで１つ、それだけでは無いよというようなのもあるかと思うのですが、１つ政策を実現する上では決して高い投資ではないのではないか。実際にこれを受けられる家庭にとった場合、この５百万がそれでいいかどうか置いておきましても、本当に安心して生み育てられる１つの手段として充分良い、あまり投資のかからない、良い政策なのではないかと思っていますので、その辺の所も含み頂いてご検討願えないかと思います。

（議長）

「町 長」

「町 長」

若い人達がこの地域に定住できるような対策を考える上での１つの要因もさることながら、医療費の事も含めてその課題であることも良く理解しております。今は、今は考えておりません。という答弁で、納得頂ければと思います。

（議長）

「小林議員」

「小林議員」

3 問目です。

「江差学の開講講座に関して」ということであります。

2 月 2 5 日に郷土史講座、同じく 2 7 日に江差学開講講座と準備。大変ご苦勞様でした。熱心な町民が参加した「泊館について」、それに続く「江差学」開講と大変勉強にもなりましたし重要な取り組みと思いました。北海道で足りないもの、その 1 つが歴史です。郷土の歴史を掘り起こすことが、江差においても将来、有益な観光資源となるのではないのでしょうか。5 0 周年を迎える江差追分、そして室町時代～幕末の開陽丸まで貴重な史跡や文化遺産を宣伝するためにも基礎調査等準備が必要とおもいますが、現状はどうなっているのでしょうか。お聞き致します。また、日頃の学芸員の活動も含め報告願えれば幸いです。

(議長)

「教育長」

「教育長」

最初に江差学についてでございますが、歴史と文化を誇る江差において、ふるさと江差に学ぶ機会の充実を図るために、江差学の運営委員会を立ち上げてまして先般議員もご参加頂きました開講講座を開催したところでございます。江差学は執行方針でも申し上げましたが、江差を知り、江差に誇りを持ち、学ぶ事が楽しい人づくりの場を作るものでございまして、歴史と文化、自然・産業 2 つの分野においてそれぞれのテーマを題材として講座を開催することとしております。ご質問の題材とするための準備状況についてでございますが、歴史・文化では江差町には国・道・町指定の有形・無形文化財が 4 6 存在しており、提供する題材は充分整っているものと考えております。尚、具体的な学習内容は今後の運営委員会で協議することとしておりますので、ご理解を頂きたいと思っております。

次に学芸員に関してでございますが、当町におきましては博物館活動・文化財保護・文化振興を 2 名の学芸員で担当し、専門的な知識を発揮しているほか、組織の一員としての一般業務も遂行しているところでございます。具体的には郷土資料館の活動の基礎となる資料を整理し台帳化を目指しているほか、常設展や年 2 回の企画展の実施と共に文化財の保護・活用を担当しております。また学芸員としての研究についても、研究の成果の発表ができるよう現在取り組

んでおりますのでご理解を頂きたいと思います。

**(議長)**

以上で「小林議員」の一般質問を終わります。